

SDGsの普及啓発

- SDGs未来都市選定から4年が経過し、SDGsの認知度は、確実に高まっている。今後、市民・企業（特に中小企業）等がSDGsを「自分ごと」として、さらに実践に繋げるためにはどのような点に留意して、普及啓発を行えばよいか？
- SDGsを経営に位置付ける企業が増える一方で、見せかけだけの「SDGsウォッシュ」が課題となっている。企業が本業としてSDGsを実践するためのポイントは何か？行政がSDGsに実践する企業をサポートするには、どのようなアプローチが有効か？
- SDGsは学校教育でも浸透しつつある中で、今後、SDGs教育を推進するためには、どのような点に留意すればよいか？

SDGs達成に向けた具体的な取組

- 環境・経済・社会を統合的に捉えるSDGsの視点を、まちづくりほか市政全般にどのように取り入れていけばよいか？（例：スマートシティ、脱炭素、ESG金融など）
- 地方創生SDGsを推進する上で、様々な関係者との連携が重要だが、今後、地域課題解決に向けて、具体的にどのような分野で連携を進めていくべきか？

SDGs関連キーワード

● 地方創生SDGs

持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて取組を推進するにあたって、SDGsの理念に沿って進めることで、政策全体の説明力アップや課題解決の加速化という相乗効果が期待でき、地方創生の取組の一層の充実・深化に繋がるとする考え方。

● 行政におけるSDGsの主流化

SDGsを行政組織全般に浸透させ、主流化を図ることが、SDGsの推進にとって重要であるとする考え方。国の「SDGs導入のためのガイドライン」では、例えば、自治体の最上位計画である総合計画にSDGsのゴール、ビジョンを位置付けるとともに、他の行政計画との関連性を明確にすることが、SDGsの浸透を高める上で有効とされている。

● バックキャスト

バックキャストは、あらかじめ望ましい将来像を設定し、そこから逆算（バックキャスト）の視点で戦略を立てる考え方。過去から現在に至る道筋の延長線で捉えるフォアキャストと対になる。近年、技術革新や社会課題の複雑・多様化に伴い、将来への先読みが難しくなっているとされており、目指すべき将来像から戦略を立てるバックキャスト視点の重要性が高まっている。

● ローカル指標

自治体ごとに地域特性に応じた指標を定めるもの。SDGs未来都市は、普遍的なSDGsの達成に向けて、独自のローカル指標を設定することが期待されている。SDGsの理念に沿い、住民との対話・合意プロセスをどのように組み込むかがポイント。

● 地方創生SDGs金融

SDGsを原動力として地方創生に取り組む地域事業者に対して、地域金融機関と自治体等が連携して支援する仕組み。内閣府では、地方創生SDGs金融を推進するための「登録・認証等制度ガイドライン」を策定し、地域におけるSDGs金融を推進している。

● GX（グリーントランスフォーメーション）

環境破壊や異常気象などの危機事象を先進技術の力で解決することで、カーボンニュートラルなどの持続可能な社会の実現を目指す取組のこと。近年、脱炭素分野では、企業の温室効果ガスの排出量の可視化（SCOPE1,2,3）が進んでおり、GXの重要性が指摘されている。